

妊婦健診と生活習慣病の予防

田中 幹二

Summary

妊婦の高齢化に伴い高血圧や糖尿病合併妊娠は増加傾向にある。こうした妊婦では母体死亡や胎児、新生児死亡のリスクが高まることから、妊娠前に適切に血圧や血糖をコントロールしておくとともに妊娠中も厳重な管理が必要である。一方、妊娠中に妊娠高血圧症候群(HDP)を発症した女性は、将来高血圧、虚血性心疾患などを発症しやすく、また妊娠糖尿病(GDM)を発症した女性は2型糖尿病発症リスクが7倍以上となり心血管疾患も発症しやすい。こうした情報を無駄にすることなく、定期的にフォローしていくことにより生活習慣病発症予防に努めるべきである。

Key words

生活習慣病
糖尿病
妊娠高血圧症候群
妊娠糖尿病
高血圧合併妊娠
定期的フォロー

Kanji Tanaka

弘前大学医学部附属病院周産母子センター診療教授

はじめに

生活習慣病は「食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群」と定義され、厚生労働省の平成29年(2017年)患者調査によると最も罹患者の多い高血圧は約1,000万人で、次いで糖尿病が約300万人である。また生活習慣病のリスク要因の解明を目指した大規模コホート研究によれば、わが国の高血圧有病女性は約2,000万人とも試算されている。高血圧や糖尿病罹患者が妊娠した場合には母体死亡や子宮内胎児死亡、胎児形態異常、新生児死亡のリスクが高まるなどハイリスク妊娠となる。

一方、妊娠中に妊娠高血圧症候群(hypertensive disorders of pregnancy ; HDP)を発症した女性では虚血性心疾患、脳血管疾患が正常妊婦の2倍以上に増えること¹⁾が、また妊娠糖尿病(gestational diabetes mellitus ; GDM)を発症した女性では2型糖尿病発症リスクが7倍以上高まること²⁾が知られている。

本稿では、妊娠前の生活習慣病(高血圧、糖尿病)が妊娠に与える影響と、妊娠中に発症したHDPやGDMと生活習慣病について概説する。

生活習慣病が妊娠に与える影響と管理

1. 高血圧

高血圧合併妊娠の頻度は0.5~5%とされるが、妊婦の高齢化と肥満増加に伴い増加傾向にあ